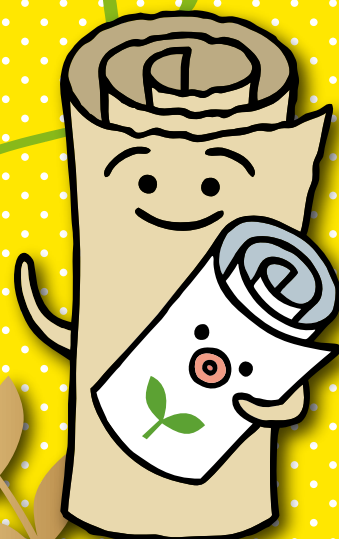




全国小中学生

紙リサイクル コンテスト2019

入賞者一覧・受賞作品 作品集

主催

公益財団法人古紙再生促進センター

後援

文部科学省、全国連合小学校長会、
全日本中学校長会、全国市町村教育委員会連合会、
全国小中学校環境教育研究会、読売新聞社、
全国製紙原料商工組合連合会、日本再生資源事業協同組合連合会、
段ボールリサイクル協議会、日本製紙連合会

2019年度 入賞者一覧



文部科学大臣賞

作文部門

三重県 桑名市立多度東小学校 4年

鈴木 真子

紙のリサイクルこうざに
さんかして

ポスター部門

鹿児島県 始良市立帖佐中学校 1年

横山 瑠奈

資源のリレー



金賞

作文
小学生部門

神奈川県 相模原市立谷口台小学校 1年

乾 葵央

山は大きいままで

作文
中学生部門

大阪府 吹田市立第六中学校 1年

山下 うらら

地域みんなで紙リサイクル

ポスター
小学生部門

富山県 富山市立大広田小学校 6年

野々村 有莉

みんなで学ぼう紙リサイクル

ポスター
中学生部門

岡山県 岡山市立高松中学校 1年

山本 直実

紙に未来を



特別金賞

全国製紙原料商工組合
連合会 理事長賞

東京都 江東区立八名川小学校 4年

雫石 華凜

楽しくリサイクル！
(作文)

日本再生資源事業協同
組合連合会 会長賞

福井県 越前市武生第一中学校 2年

酒井 明日花

限りある資源を
大切にするために
(作文)

段ボールリサイクル
協議会 会長賞

東京都 大田区立六郷小学校 4年

早川 明里

紙リサイクル
つづけよう！
(ポスター)

応募総数：2,371点（応募校数：195校）



銀賞

作文
小学生部門 東京都 荒川区立第三日暮里小学校 4年
草柳 祐美子 もったいないをなくそうよ

作文
中学生部門 宮崎県 宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 1年
川越 優羽 紙リサイクルは幸せの鍵

ポスター
小学生部門 鹿児島県 霧島市立天降川小学校 1年
野崎 宏太 すてないでリサイクル

ポスター
中学生部門 東京都 小金井市立緑中学校 2年
山下 理紗 未来へつなぐ 紙リサイクル



佳作

	部門	都道府県	学校名	学年	氏名	タイトル
作文	小学生部門	山梨県	富士吉田市立吉田西小学校	2	杉田 蓮	ぼくのふしぎ
		山口県	周南市立富田東小学校	2	松本 憩	ダンボールリサイクル
	中学生部門	神奈川県	横浜共立学園中学校高等学校	2	卯尾 奏絵	大人の意識を変えるため
		福岡県	太宰府市立太宰府中学校	3	志村 真悠	未来を変えるために
ポスター	小学生部門	大阪府	島本町立第二小学校	2	若山 怜穂	紙リサイクルで ちきゅうをまもう！！
		山口県	下関市立室津小学校	6	飛垣 七海	地球の運命、 決めるのはあなたです！
	中学生部門	東京都	かえつ有明中・高等学校	1	覚張 優花	目指せ！リサイクル名人
		兵庫県	神戸市立太山寺中学校	1	藤原 彩音	未来につなぐ紙リサイクル



学校奨励賞

小学校部門 **愛知県 豊田市立竹村小学校**

中学校部門 **大阪府 吹田市立第六中学校**

目次

3-4P	文部科学大臣賞受賞作品
5-8P	金賞受賞作品
9-11P	特別金賞受賞作品
12-13P	銀賞受賞作品
14-17P	佳作受賞作品
18P	学校奨励賞受賞校紹介



文部科学大臣賞 作文部門

桑名市立多度東小学校 4年

鈴木 真子

紙のリサイクルこうざにさんかして

四年生の社会で、リサイクルの勉強をしました。もっとリサイクルについて知りたいと思い、また、再生紙を実さいに作ってみたくて、夏休みにリサイクル業者さんの「紙のリサイクルと楽しい葉書づくり」に参加しました。

まず最初に、紙のリサイクルのお話を聞きました。一つ目に、せんざいの箱や、どくとくのおいがついた紙は、リサイクルして、たとえばおかしの箱になった時に、再生した紙にもおいがつくので、リサイクルできないと知ってびっくりしました。紙は何でもリサイクルしたらいいと思っていただけ、再生した時のことを考えて、リサイクルするのが大事だと分かりました。

二つ目に、私たち日本人が一年間、一人あたり、二百キログラムも紙を使っていると知っておどろきました。そして、もっと使う紙をへらし、使った紙はリサイクルしなければいけないと思いました。たとえば、私は学年が上がると、前の学年の中のノートを使わずに、新しいノートを使ってしまうので、これからは前の学年のノートでも、最後まで使おうと思います。

三つ目に、紙の種類によって、再生できる紙の種類が決まっているので、分別して紙をリサイクルしないといけないと分かりました。

次に、工場見学に行きました。人びとが分別をせずにしげんを出すと、工場の人が手で分別をすることに

なり、また、次のリサイクル工場におこられてしまうことが分かりました。分別されてサイコ口状にかためられ、そのかたまりが高くつみ上げられていたのを見て、私はみんなが、リサイクルにきょう力してくれていると知りました。でも、もっとたくさんの人が、リサイクルにきょう力してほしいと思いました。

最後に、葉書作りを体験しました。ピンク色のA四の紙一まいで、少し黒っぽくなったピンク色の葉書ができました。とてもいいねいに教えてもらったので、たった三十分で葉書を作ることができ、びっくりしました。なぜ牛にゆうバックで作らなかったのか、しつ問すると、かたまりにくいので時間がかかるから、と答えてくれました。教えてもらいながら作るとかん単だけど、家で作ったらむずかしいと思います。一人一人が再生紙を作ろうと思うと大変だから、せん門の工場の人みんなのために、まとめて再生紙を作ってくれていると思いました。

私はこの体験で、リサイクルのことがよく分かり、とても楽しかったです。私は、リサイクルすることの大切さと、注意する点を学びました。

だから、このことを学校でみんなに伝えたいです。私は美化委員なので、委員会活動の中でクイズにしてみんなに伝えたいです。そうしたら、みんながきょう味を持ってくれて、工場の人にめいわくがかからないし、みんながリサイクルをしやすくなると思います。



文部科学大臣賞 ポスター部門

始良市立帖佐中学校 1年

横山 瑠奈

資源のリレー



作文小学生部門

金賞

相模原市立谷口台小学校 1年

乾 葵央

山は大きいままで

なつやすみにぼくは、パパとママとおにちゃんと山のぼりにいきました。山のとちゅうに、たおれた木がありました。「あおくんの本やマンガやぬりえになるのかもしれないね。」と、パパがおしえてくれました。「じゃあ、ぼくの本やぬりえをあつめたら、山になるの。」と、パパにきいたら、「そうはならないよ。」と、いわれました。

そしたら、山はどんどん小さくなるのかな、としんぱいになりました。木はかみになるけれど、かみは木にならないらしいです。でも、かみはかみになるからリサイクルすれば、木をつかわないで山は大きいままでいられます。

それでぼくは、いえにかえておへや

にある、おにちゃんのひみつきちをみてかんがえました。

ひみつちは、ダンボールでできています。中にはダンボールの本だな、ダンボールのじどうはんばいき、ダンボールのいすとつくえがあります。

これがぜんぶ大きくなって、ほんものになったらいいのとおもいました。

かみでつくるおうちだったら、いらなくなつたときに、またピカピカにつくれば、あたらしい木をたおさなくてすみます。かみはかみになるからです。

もつとつよくて、じょうぶなかみができて、いつかそうならいいのとおもいます。

ぼくののぼつた山が、いつまでも大きい山のままでいられますように。

作文中学生部門

金賞

吹田市立第六中学校 1年

山下 うらら

地域みんなで紙リサイクル

紙リサイクルに関する活動やアイデアについて私なりに考えてみました。紙リサイクルが重要であることは、誰でも理解していると思います。紙類をそのまま捨ててしまうとゴミになってしまいますが、分別して紙リサイクルをすることで身近ないろいろな物に生まれ変わります。具体的には、段ボールが主にまた段ボールやトイレットペーパーの芯に、雑誌は主にボール紙や絵本に生まれ変わります。新聞は、主に再び新聞や雑誌、印刷用紙にリサイクルされます。紙パックやコピー用紙は、トイレットペーパーやティッシュペーパーなど、生活に欠かすことのできない身近な物に変わります。ただつい面倒に感じてしまったり、お年寄りの方達は束ねた新聞紙や大きな段ボールは重いため処理に困ってリサイクルどころではないかもしれません。そこで私が考えたのは地域のお年寄りや体が不自由な方の家に私達中学生や、高校生が大人のひとと一緒に回って読み終わった雑誌や新聞、紙パックや段ボールなどを月に一回程度、回収してみてもどうかということです。

地域の方と顔見知りになれるし、定期的に会うことでおたがいに話をしたりして仲良くなれるか

もしれません。

私は、祖父母とはなれて住んでいるので、地域のお年寄りの方と交流できたらとても嬉しく思います。紙リサイクルの輪も広がるし、普段はあまり関わることもない方々とも知り合えるし、一石二鳥のアイデアだと思います。地域を回る事で私達は今までより町のことや地域にどんな方が住んでいるか知ることができるとし、お年寄りの方や体が不自由な方達は元気な若者と交流することで明るく楽しい気持ちになってももらえるのではないかと思います。紙リサイクルの活動の時以外でも、町で会えば

「こんにちは！毎日暑いけど元気ですか？また回収に行きますね。」

「うん。暑いからおたがい熱中症には気をつけないとね。新聞がたまってきたからそろそろたのむよ。」などと気軽にあいさつを交わすことができるようになると思います。

この回収活動をきっかけに地域全体が紙リサイクルに協力してくれるようになればみんなの意識も変わり、ゴミも減ってより住みやすく美しい町になるのではないかと期待しています。実現できたら本当に素敵だなあととてもワクワクします。

ポスター小学生部門

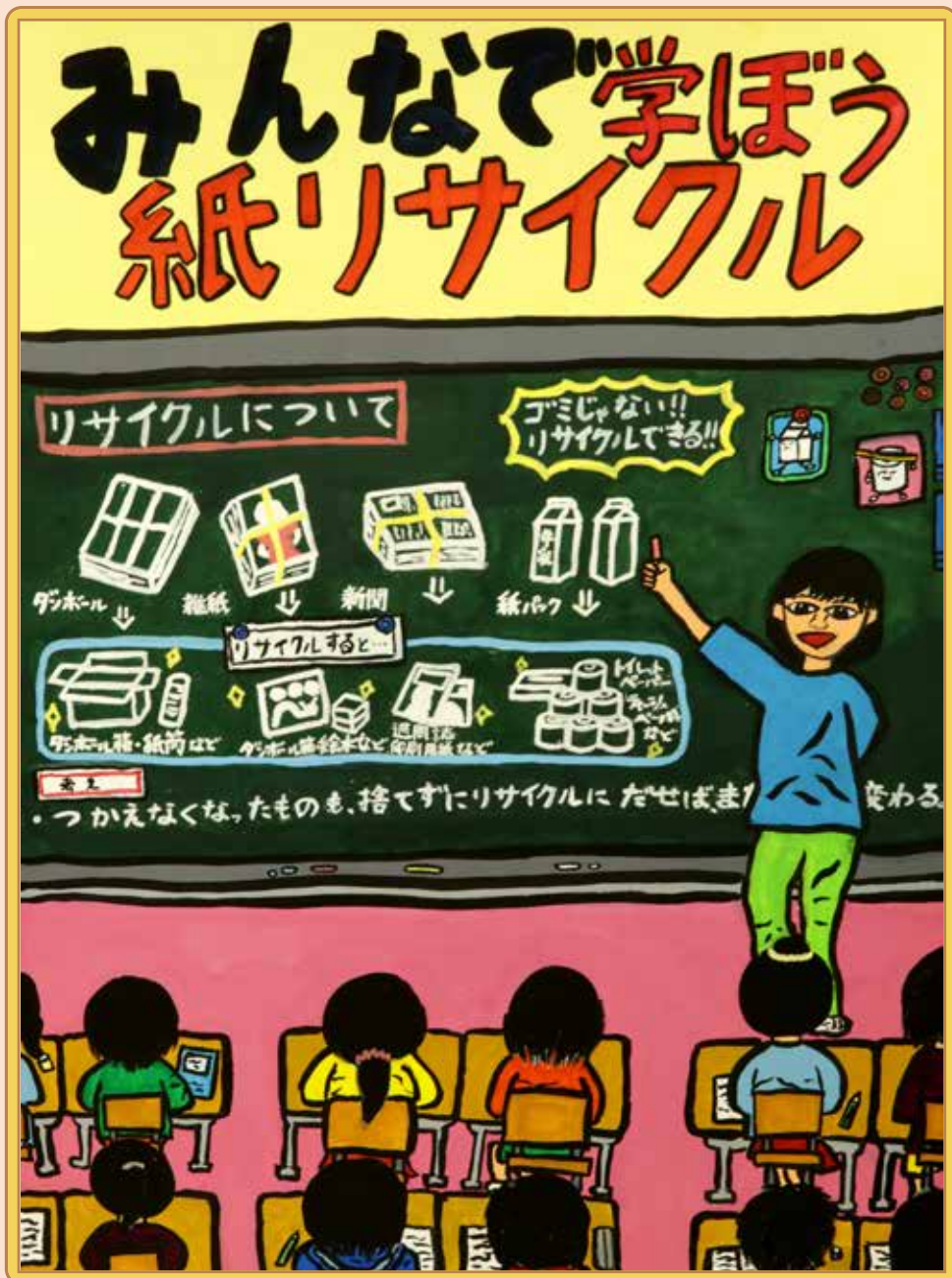
野々村 有莉

金賞

富山市立大広田小学校 6年

野々村 有莉

みんなで学ぼう紙リサイクル



ポスター中学生部門

金賞

岡山市立高松中学校 1年

山本 直実

紙に未来を



特別
金賞

江東区立八名川小学校 4年

雫石 華凜

楽しくリサイクル！

リサイクル紙を見ると、

「この紙、どこから来たんだろう？」って、ひとりでわらっちゃうことがあります。だってお父さんが「だれかのトイレのしんかも」って言うから、においかじじゃったの思い出しちゃう。

でもお父さんの言うとおり、いろいろなところから集まってできた紙なんだあって思うと、なんだかおもしろくなってくる。自分が使っていた紙が、またもどってきたらとか、世界の国のどこかで使われてたらとか、どんなぼうけんをしてきたのかわかって。

そんなわたしをわくわくさせてくれる紙は、木からできています。その木がなくなったら大変です。リサイクルすることはもちろん大切だけど、木のこと、自然のことも大切にしないといけないと思います。お父さんとわたしは、ブナという木を山に植えました。お父さんの子どものころと、わたしが生まれた時。その木が切られて紙になってポイってされたら、悲しくなります。わたしたちを守ってくれている自然を、好きなだけ使ってすててをくり返していたら、いつか人間は地球からすてられてしまうかもしれません。

紙はわたしたちの生活に必要です。どこを見ても紙があります。もしもなくなったら、勉強や仕事、トイレは？当たり前と思っていたことができなくなったら、すごくこまります。だから、紙を

大事に使うこと、リサイクルすることは、自然を守り、世界を救うことにつながるって、多くの人に知ってほしいと思いました。

わたしは絵をかくのが好きなので、ポスターにして、学校にはってもらってみんなでリサイクルに協力しています。そしたら「家でも紙集めるようにした」って話してくれる人がいました。「ぼーっとしてる」って、いつも言われているわたしにもできることがあってうれしかった。

だけど、何で？っていうこともありました。めんどくさいとか、かつこ悪いとか、どーせだれかがやるだろとか言って、わざとやらない人がいたことです。

「リサイクルしよう」って伝えなくても、ひとりひとりがふつうにできるようになることが本当は一番いいけど、それには自分の考えだけじゃ足りない、みんなの考えも知ることが大事なんだって感じました。

リサイクルに使える紙、使えない紙、細かい決まりはあるけれど、まずはすてないで集めてみよって気持ちにするにはどうしたらいいだろう？もしゲームみたいに遊びながらできたら、もっとリサイクルにきょうみを持ってくれる人ふえるかなとか、みんながいっぱい意見を出し合っています。わたしは、みんなが楽しくなるようなリサイクル活動をこれからも続けていきたいです。

特別
金賞

越前市武生第一中学校 2年

酒井 明日花

限りある資源を大切にするために

私達が、普段何気なく使っている新聞紙や雑誌、段ボール、紙パック。これらのものは全てリサイクルすることができます。

新聞紙や雑誌は、新しい新聞紙や週刊誌、印刷用紙、絵本などに生まれ変わります。紙パックは回収されたあと、工場でパルプとなり、トイレットペーパーやティッシュペーパー、キッチンペーパーとなります。

また、新聞紙は、私が住んでいる福井県越前市の伝統工芸である越前和紙の原料としても使われています。私はこの夏休みに、父が働く越前和紙製造会社に職場体験に行きました。父が働く会社は、紙リサイクルに大きく貢献しているそうです。

まず、古新聞紙を県外からできるだけ多く集めます。そして、それらがある程度細かくしたら、別の機械に送って水洗いし、さらに細かく砕いていきます。そこに色をつけ、薬品を入れたら和紙の原料は完成です。さらに抄造マシーンという機械にかけ、水分をぬいて乾燥させれば、越前和紙の出来上がりです。

父がつくっている越前和紙の一つである雲華紙というものは、九十八%が古紙でできているそうです。古紙のほとんどが古新聞紙です。このように、地域の伝統工芸でも、紙リサイクルが活用されています。現在、世界では、海洋プラスチックごみ問題が注目されています。そこで、私は、日常生活では当

りに使っているプラスチック製品を紙製品のものに変えていければと考えました。紙製品ならたくさん使ってもリサイクルできるので、資源を繰り返し使えます。

例えば、レジ袋やビニール袋の包装を、紙袋に変えます。和紙は丈夫なので重い荷物を入れるにはぴったりです。また、いろんな色があり花柄や鶴などの華やかな模様もあるので、見た目にも楽しめます。

他にも、ペットボトルを牛乳パックのような紙パックに変えてみます。保存ができないなどの難点もありますが、キャップはプラスチックでそれ以外を紙にするだけでも、プラスチックの使用量を大幅に減らすことができます。価格も抑えられると思います。

紙製品のを増やしていくためには、それだけの新聞紙や雑誌、段ボールが必要とされます。最近では、各市町村の資源回収だけでなく、スーパーなどでも古紙をリサイクルに出すことができます。自分が出した、ほんの少しの古紙でも、リサイクルすれば、新たな製品に生まれ変わります。

海洋プラスチックごみ問題や地球温暖化など深刻な環境問題が進む今、紙は大事な資源です。豊かな自然を守るためにも、限りある資源をリサイクルすることは大切です。読み終わった新聞紙や雑誌、使い終わった段ボールや紙パックは積極的にリサイクルするべきです。私も、家族や友達、地域の方に紙リサイクルへの協力を呼びかけたいと思います。

段ボールリサイクル協議会 会長賞

特別
金賞

大田区立六郷小学校 4年

早川 明里

紙リサイクルつづけよう！



もったいないをなくそうよ

私は、いままで紙はリサイクルできて紙製品に生まれ変わることをくらしが知りませんでした。そして分別してリサイクルされるけど、本当に新しい物に生まれ変わるのか少しふしぎに思いました。学校の社会科見学でリサイクルセンターに行つて、いろんなものをリサイクルしているところを見ました。そしてどのようなものがリサイクルできるのか、いろんなことを学びました。

家ではできるだけ、使わなくなった紙のうらに絵をかいたりして、使わなくなった紙をすてないようにしています。私は、紙をすててごみにするのではなく、リサイクルして新しい立派な紙製品にする。このことを続けられれば、たくさんの紙をリサイクルして、もったいなくならないようにできると思います。そして、いらなくなった紙をどんどんすていくのではなく、一人一人がきちんと、リサイクルできるもののシールをきれいはがしてからリサイクル箱に入れたり、食べのこがあるばあいリサイクルできないから、きちんと分別して出したりすればいいと思います。そして、自分もちゃんとシールをきれいはがしたり、きちんと分別をして紙のむだのないようにしたいし、しげんを大切にしたいです。

私が、これからやっていきたい紙リサイクルは、今まで家でやってきた使わなくなった紙のうらに絵をかいていたことをこれからも続けていきたいし、うら表どちらも印刷されている紙などは絵がかけないけど、すてないでリサイクルします。そして、新聞紙などもリサイクルできるのでそのようなものもすんでリサイクルしていきたいと思いました。このことを行くと、今まですててごみになっていたうら表印刷されている紙もリサイクルして新しいものに生まれ変わってむだのないようにできることです。それと、新聞紙もリサイクルできるので紙のごみはへっていくことです。

私は、紙リサイクルを広めて、未来の世界は、一人一人がちゃんと分別していて、私は「もったいない」をなくしたいです。

これからも、もっとリサイクルのことを知ってみんなにどんどん大切なことを広めて、むだのないようにしていきたいです。

紙リサイクルは幸せの鍵

私が生まれるずっと前の江戸時代。この時代はいろいろなものがリサイクルされていた。もちろん、紙もそのうちのひとつだ。日本では昔から、使った紙をリサイクルするという精神があった。しかし、今はどうだろう。紙をリサイクルせずに、捨てている人がたくさんいるように感じる。みんなに紙をリサイクルしてもらうためにはどうしたらいいのか。それについての私の考えを述べようと思う。

みんなが紙をリサイクルしてくれるようにするためには「教育」が必要だ。人に悪いことをしたら、あやまりなさいと小さいころから言われていることは、自然と身に付く。それと同じように、保育園や幼稚園、小学生のころから紙はリサイクルするものだを教えておけば、紙はリサイクルすることが普通。という社会になっていくのではないだろうか。紙リサイクル教育を実施することになったら、積極的に「体験」を取り入れてほしい。小さい子供に教えるには体験をさせて教えるという方法のほうが有効だと思う。私も小学生のときに、牛乳パックをリサイクルしてはがきにするという授業があった。もし、その授業が、はがき作りの体験ではなく「紙リサイクルをしましょう」と普通に教えられる授業だったとしたら、こんなに心に残っていなかっただろう。例えば、紙リサイクルについて自分で調べてみるとか、牛乳パックではがきを作ることなどを体験して、興味をもってもらうことが紙リサイクルに対しての意識を高めるために必要だと思う。

私たちの暮らしのなかで、紙製品はたくさん使われている。普通なら「ゴミ」になってしまうはずの紙製品を全て捨てずに、リサイクルすることができたら、燃やすゴミの量が減り環境問題も少し改善するだろう。だから、紙リサイクルは大切なのだ。

これまで、「紙リサイクルを広めるためにはどうすればよいか」のアイデアを書いてきたが、実を言うと、私も紙リサイクルのことを意識していないうちの一人だった。しかし、その考えは授業で学習したり、はがき作りの体験をしたりするうちに変わっていった。そうはいっても、結局は一人一人の心の持ちようも必要になってくる。ゴミを分別するのは手間がかかる。その手間がかかる作業を続けていくのには、「自分が社会を変えていくこう」という気持ちが必要だ。これから先の社会を担っていくのは、他の誰でもなく、私たちである。自分たちの暮らしを変えていくことができるのは、自分たちしかないのだ。だから、私は紙リサイクルを行っていききたいと思う。

ポスター
小学生部門
銀賞

霧島市立天降川小学校 1年

野崎 宏太

すてないでリサイクル



ポスター
中学生部門
銀賞

小金井市立緑中学校 2年

山下 理紗

未来へつなぐ 紙リサイクル



ぼくのふしぎ

おじいちゃんのいえのかたづけに行ったとき、つかわない紙、ダンボール、本がたくさんでてきました。これをどうやってするのとおかあさんにききました。

「町のリサイクルセンターにもっていきそこからあたらしい紙ができるんだよ。」

と、おしえてもらいました。

ぼくは、リサイクルセンターがどんなところかふしぎにおもい、おかあさんといっしょにいきました。リサイクルセンターには、大きなカゴがたくさんありました。

おくには、大きなベルトコンベアがありました。カゴには、紙、ざっしなどふだがありわけてすてるようになっていました。ダンボールは、ベルトコンベアにながしてきよだいなダンボールのかたまりができていました。これがまたあたらしい紙になるのかふしぎにおもいました。ぼくがふしぎなおをしていると、おじさんがきてぼくにいました。

「本、ダンボールなどをすてるときは、ほかのごみはぜつたいにまぜない。ほかのごみをいれるとききれいな紙ができない。」

と、おしえてもらいました。

ぼくも、よまなくなつた本などはまたきれいな紙になるようにリサイクルしたいと思いました。リサイクルにはまだまだふしぎがたくさんあるのでたくさんしりたいです。

ダンボールリサイクル

わたしのお母さんは、よくゴミを出します。わたしはきんじょのゴミおき場までお手つだいでゴミをもっていくのでゴミの日はずぐにわかります。

もえるごみとプラスチックのゴミの日がいにもまい日なかりサイクルのゴミの日になっています。かんやペットボトルやダンボールです。ダンボールはとくに多いです。お父さんとお母さんは、インターネットでよく買いものをします。だからすぐにダンボールがたまります。

お母さんはスーパーに買いものに行くときにはエコバックをもっていきます。ビニールぶくろをつかわないためのくふうです。それなのにインターネットで買いものをする、小さいものを買っているとても大きなダンボールがとどきます。ときどき同じ日に二つも三つもとどくことがあります。インターネットで買いものをして、すぐに家にとどくのはとてもべんりです。けれどダンボールをつかいすぎるとなと思います。いっしょのはこに入れたらいいと思います。ダンボールのゴミの日にとめて出すとリサイクルにつながって、また新しいダンボールになると聞きました。ダンボールをリサイクルすることもとても大切だけどダンボールをつかいすぎないようにすることも大切だと思います。エコバックみたいなしくみがインターネットの買いものでもできればいいなと思います。

それとお母さんはスーパーに行くときにもダンボールをもっていくことがあります。スーパーの外にダンボールをあつめるところがあります。そこにダンボールを出すとスーパーでつかえるポイントがたまります。お母さんもあつめています。みんながダンボールをゴミとしてすてるのではなく、リサイクルできるようになればいいなと思います。ポイントをもっともらえるようになるとみんながダンボールを出しにくるはず。リサイクルをしてうれしい気持ちになれるとよいです。

わたしはじぶんで古いダンボールから新しいダンボールをつくることかできません。新しいノートや紙をつくることもできません。けれど新しい紙のざいりようになるように、これからはダンボールをそのまますてるのではなく、リサイクルにもっていきたいと思います。

大人の意識を変えるため

私は小学生の頃に、「自然環境委員会」という、学校の自然や、ゴミについての活動をする委員会に入っていた。その活動の中に、毎週末クラスごとに出るゴミを回収し、分別できているかを確認する。そして、分別ができていなかったらそのクラスにはもう一度分別をし直してもらう、というものがあつた。この活動をしていると気づくことがあつた。一般ゴミに混ざっている紙ゴミの量が、高学年の方が多いのだ。先生がいちいち注意することがなくなる、ということもあるのだろうか、「面倒くさい」という感情で分別をしなくなってしまうのだろうか。

そう考えてみると、年齢が上がれば上がる程分別をしなくなっている気がする。つまり、小さいころはやる気とほめられるからやるが、年が上がると、やらなければいけないとは思っても面倒の方が強い。その程度のものであるのだ。その改善には紙を紙ゴミとして出すことの気軽さと、分別はあたり前という意識が必要になってくる。

そこで、いつでも紙ゴミを出せる環境をつくってみてはどうだろうか。紙ゴミは雨の日に出すのが気がひけたり、週に一度しか回収がない地域が多いので、その日を逃してしまうと二週間分のゴミがたまってしまう。紙は強い風さえ防ぐことができれば外に置いていたからといって腐ったりすることもない。なので、普段一般ゴミのゴミ捨て場となつているところに、紙ゴミ回収ボックスを設置してみたらどうだろうか。そうすれば、時間があるときに、ゴミがたまってきた時に、一般ゴミを出しに行くついでに、と自由な時間に出すことができる。よって、紙ゴミとして出すことが手軽になるのではないだろうか。

そして、一番重要なのはやはり「意識」だと考えられる。分別は面倒なところも多い。たとえば買った洋服についているタグは、あんなに小さいものなのにプラゴミと紙ゴミに分けないといけない。その面倒で一般ゴミに捨てるのをストップしなければならぬ。私は町のゴミ箱で、紙ゴミに一般ゴミを混ぜないで、というポスターを見たことがある。たしかにそれは大切なことであろう。しかし、一般ゴミに紙ゴミを入れないで、というポスターは見たことがない。そういったポスターがあるだけでも、少しは意識が変わっていくのではないか。

この社会は、大人と小人だと大人の方がはるかに多い。そんな社会を背負っている大人たちの改革を、私は提案したい。

未来を変えるために

私は普段、家庭でリサイクルをしています。例えば、発泡スチロールのトレーやアルミ缶、スチール缶などをショッピングセンターに持っていくことやチラシや空き箱を集めて、工場へ持っていくことです。昔から母に教えられて、家族全員でリサイクルに前向きな気持ちで取り組んできました。

しかし、私の家庭のようにリサイクルできている家庭ばかりではありません。古紙を集めても車がなければ大量の古紙を持っていけないし、近くに工場がなければリサイクルさえもできません。もちろん、リサイクルをしていない家庭も実際に存在しています。

そして今、私達の暮らしている地球は、「温暖化」という問題を抱えています。また、古紙をリサイクルすることによって、ごみを減らし、焼却などに使われるエネルギーを削減することによって温暖化を防ぐことが出来ます。昔から古紙は3～5回は再生できると言われています。では、現代ではどうでしょうか。皆さんはリサイクルをできていますか。意識していますか。考えたことはありませんか。

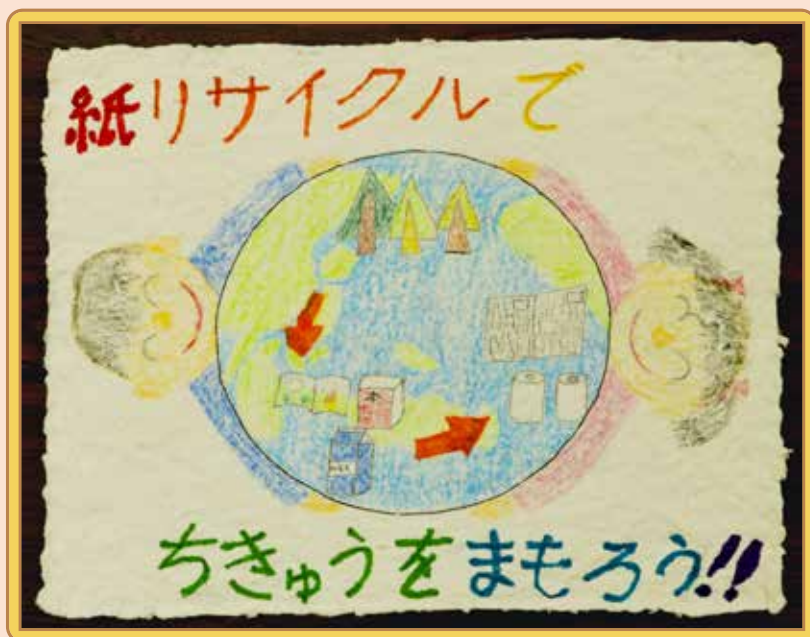
そこで、誰でもリサイクル活動をする方法の鍵はグリーンマークにあると私は考えます。グリーンマークとは、古紙から再生して作られた製品をいいます。つまり、その商品を私達が買うことによって、本来ゴミになるはずだった古紙を減らすこととなります。例えば工場や資源回収が無くて、買うことによってリサイクル活動ができます。

しかし、買うだけではなく、古紙を使って製品を作ることでも大切です。生産者も古紙をリサイクルしたものを使って製品をつくる必要があります。そのために私達がグリーンマークの付く製品を買って、生産者側に古紙のリサイクルを啓発しましょう。

この2つの行動が現在の地球環境を大きく変えられるとは思っています。こんな小さな努力でも私達は地球環境を救うことができます。私はそのために、リサイクル活動が続けていくと思えます。そして、身の回りの人々に広めます。今を変えるために。私の未来をつくるために。これから生まれてくる子どもたちの笑顔のために。



島本町立第二小学校 2年 若山 怜穂
紙リサイクルでちきゅうをまもろう！！



下関市立室津小学校 6年 飛垣 七海
地球の運命、決めるのはあなたです！



ポスター
中学生部門
佳作

寛張 優花

目指せ!

リサイクル名人

すこしく

トイレットペーパーの芯をリサイクルに出した。

雑誌や新聞の紙をリサイクルに出した。

おもちゃのプラスチック製品をリサイクルに出した。

古い本や雑誌をリサイクルに出した。

空き箱をリサイクルに出した。

スタート

テストで高得点を取ったのでリサイクルに出さずとしたお友達に見つかり、おごられる。1回休み

読み終わった新聞をリサイクルに出す

かわいい絵の紙をミズリサイクルに出した。スタート

使わなくなった広告やパンフレットをリサイクルに出した。

買った物にしたしーとをリサイクルに出した。全部のリサイクル

年賀状をリサイクルに出す

自然は大切

リサイクル名人

ポスター
中学生部門
佳作

藤原 彩音

未来につなごう
リサイクルのボタン



学校奨励賞 小学校部門

愛知県 豊田市立竹村小学校

応募作品数 102 点（ポスター作品 102 点）

学校紹介

竹村小学校は明治 6 年に開校した伝統ある学校です。地域とのつながりが深く、保護者ボランティアの方々がいろいろお手伝いに来てくださっています。

伝統芸能として「チャラボコ部」があり、毎年、学芸会や祖父母参観などの学校行事や地域の交流館祭などで演奏をしています。

【沿革】

明治 6 年 11 月 開校

児童数 666 名

学級数 22 学級



清水 尚 校長先生からのコメント

古紙再生に関心をもち、学年で取り組んだポスター制作が、学校奨励賞をいただき感謝しております。この受賞が、未来のあるべきエコな姿への関心を高めることにつながると期待しております。



学校奨励賞 中学校部門

大阪府 吹田市立第六中学校

応募作品数 409 点（作文作品 409 点）

学校紹介

挨拶を大切にしており、校舎内は、挨拶の溢れる元気な学校です。とても元気な生徒ばかりですので、行事ひとつひとつに一生懸命取り組み、いつも教師を含めて盛り上がっています。また、クラブ活動にも熱心に取り組んでおり、全国大会出場をはじめ、市や地区大会でも多くのクラブが優秀な成績を収めています。

【沿革】

1968 年 11 月 開校

生徒数 472 名

学級数 13 学級



岡本 紀子 校長先生からのコメント

紙リサイクルコンテストへの応募を通して、自分たち自身や、住んでいる地球の将来について、資源の節約という視点で考えられたことが今回の受賞につながったと思います。ありがとうございます。



全国小中学生

紙リサイクル[®] コンテスト2019

入賞者一覧・受賞作品 作品集

全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2019

入賞者一覧・受賞作品 作品集

企画・発行

公益財団法人古紙再生促進センター

<http://www.prpc.or.jp/>

〒104-0042 東京都中央区入船3丁目10番9号 新富町ビル4F

TEL: 03-3537-6822 FAX: 03-3537-6823